

砥峰高原～明延鉱山跡

1・砥峰高原

1917年11月3日の砥峰高原



駐車場から見た砥峰高原



薄の群生と遠くの展望台



展望台よりの景色(前方方向交流館)

砥峰高原は西日本で有数の約90haに及ぶ薄の草原が広がる高原です。

峰山・雪彦・生野高原とともに県立自然公園に指定されています。

春には緑の大地に可憐な花々が咲き初夏には涼風に乗って、小鳥のさえずりが聞こえ、秋には秋の七草が彩を添え、冬は一面雪化粧をほどこし、四季それぞれに醸し出す風景は県下随一の名にふさわしいです。

また映画「ノルウェイの森」、大河ドラマ「平清盛」「軍師黒田官兵衛」のロケ地にもなりました。

ハイキングコースは 一周・3.1km・所要時間 90分です。

2・明延鉱山

構内見学時間は1時間くらい・総延長 650m



明延鉱山跡

明延鉱山は平安時代初期の大同年間に採掘開始といわれる。明治初年（1868年）、生野銀山とともに官営となり、1896年（明治29年）に三菱合資会社に払い下げられた。

1973年（昭和48年）に三菱金属株式会社（現三菱マテリアル株式会社）となり、1972年（昭和47年）のオイルショックをきっかけに、1976年（昭和51年）に三菱金属の子会社として分離・独立し明延鉱業株式会社となる。最盛期には、鉱山関係の人口が4,123人（963世帯）おり、娯楽施設の協和会館では、最新の映画が上演され、多くの芸能人（島倉千代子、村田英雄、フランク永井など）が歌った。

1912 年（大正元年）に明延鉱山の鉱石を神子畑（みこばた）選鉱所に運ぶためにつくられた 5.75 km の鉱山列車「明神電車」は、1952 年（昭和 27 年）以来、乗車賃「一円」で乗客を運んだことから、「一円電車」として有名になったこともある。

粗鉱生産量は、ピーク時の戦時中から 1951 年（昭和 26 年）頃には月産 35,000t、閉山前頃には、銅、亜鉛、スズの粗鉱生産量が月産 25,500 t であったが、プラザ合意後の急激な円高に伴う銅、亜鉛、スズの市況の下落により、大幅な赤字を計上することとなり、まだ採掘可能な鉱脈を残して、1987 年（昭和 62 年）1 月 31 日午後 11 時 20 分の発破を最後に、同年 3 月をもって閉山した。

以上